

大磯町第五次総合計画基本構想（素案）についての意見募集の結果について

町では、大磯町第五次総合計画基本構想（素案）に対する意見の募集を行いました。いただいた御意見及びそれに対する町の考え方をまとめましたので公表します。  
御協力ありがとうございました。

1 意見募集の概要

- (1) 計画名 大磯町第五次総合計画基本構想
- (2) 募集期間 令和 2 年 5 月 1 日（金）から 6 月 1 日（月）まで
- (3) 募集方法 広報おおいそ 5 月号及び町ホームページへの掲載  
役場本庁舎、国府支所での計画案の縦覧及び貸出し
- (4) 提出方法 持参、郵送、ファックス、電子メール、電子申請システム

2 意見募集の結果

- (1) 意見者数 7 人
- (2) 意見件数 19 件

<問い合わせ先> 大磯町政策総務部政策課政策係  
電話 0463-61-4100 内線 205・229

大磯町第五次総合計画基本構想（素案）についてのご意見及び町の考え方について

番号	頁	意見
1	全般	<p>令和2年5月 おおいそ広報、4頁の首記課題は、充実され町の基本施策として、町民のコンセンサスにすべきと促進させて頂きたい。</p> <p>実は、同封しました2018.10.16付で中崎町長及び教育委員会の方々に時間をいただき小生が提案させていただいた主旨を実施される使命感さえ感じます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 添付の2頁を再読いただき、計画案を充実させていただきたい。</li> <li>2. 町の長期政策は、町民全員のコンセンサスが力になりますので首記かたぐるしい表現でなく「教養立町」とすれば親しみ易いと存じます。</li> <li>3. 大磯を世界に発信する誇ある町にする為には「英語」を公用語まで育てることで、毎年開設する小学校の英語教室は小生の提案であり、教室のリーダーも小生が推薦しました。</li> </ol>
		<p style="text-align: center;"><b>町の考え方（フルスペック）</b></p> <p>平成30年にいただいた提案の趣旨は、将来の大磯町のあるべき姿を具体的に設定すること、あるべき姿として教養のある町をめざし英語教育を推進することであったと理解しています。</p> <p>◆将来のあるべき姿の設定について 今回意見募集を行った総合計画基本構想は将来の大磯町を見据えた町の方針を定めるものであり、提案の趣旨に見合うものと考えています。</p> <p>◆計画名称について 計画名称は「第五次総合計画」として既に決定していますが、町民にも親しまれるような副題の設定を検討しています。副題については基本計画とともに検討してまいりますので、いただいたご意見も参考とさせていただきます。</p> <p>◆英語教育の推進について 第8章柱Ⅳにおいて、時代の変化に対応した特色のある教育内容や教育環境の充実を図ることを位置付けており、いただいたご意見も参考に、基本計画の検討を進めてまいります。</p>
番号	頁	意見
2	全般	<p>結果報告書というには、毎回の作業結果を順に述べているにすぎない。 結果というのであれば、P.35～P.41 または 1/11付 W/Sでの発表資料でよいのではないか。</p> <p>むしろ、目指したい町のイメージや大きな課題の優先順位付け、取組み手段の実現性や方法などを visionとして掲げた方が、より理解しやすいし、町としての進むべき（取組むべき）方向が見えてくるのではないか。</p> <p>むしろ、“まちづくりプロジェクト”をどうまわしていくかが問題であると思われる。今後も注視していきたい。</p>
		<p style="text-align: center;"><b>町の考え方</b></p> <p>昨年実施したワークショップの結果報告書を受けてのご意見として受け止めます。 今回意見募集を行った基本構想（素案）は、ワークショップ結果報告書も参考としながら策定しています。「基本構想」は、総合計画の根幹として、町がめざすべき将来像やまちづくりを進める基本理念を掲げ、その実現に向けた施策の大綱である「まちづくりの5つの柱」を示しています。</p> <p>その目指すべき将来像の実現に向け、今後策定する「基本計画」においては、推進すべき具体的な施策を体系的に表します。基本計画は、計画の中で重点的に取り組む施策を定める「重点プロジェクト」及び福祉、教育、環境、産業などの分野別施策を定める「部門別計画」で構成する予定です。</p> <p>また、ワークショップ参加者により提案された「まちづくりプロジェクト」は、町政への町民の皆さんの参加や町民同士のつながりを構築していく取組みと捉えており、このような観点は重要なこととの認識から基本理念として「つながりと創生」を位置付けています。具体的な取組みについては、基本計画の策定とともに検討していきます。</p>
番号	頁	意見
3	全般	<p>せっかく良い素案ができたのですから、その中の1つでも2つでも実現するために、素案だけでは、あまりに抽象的なのもっと具体的に綿密な実施計画を立てないといけないと思います。</p> <p>そのためには、町民を巻き込んで、引き続き話し合いを重ねていかないとはいけません。</p> <p>役場内の風通しが悪いと思います。</p> <p>せめて、職員の移動があった時などは、仕事内容の丁寧な引き継ぎをして欲しいです。</p>

		<p>せっかく進行していた物事が停滞してしまいます。 役場内の連携を密にしてください。 以上です。</p>
		<b>町の考え方</b>
		<p>◆基本構想と基本計画、実施計画の関係性について 本町の総合計画は、町政運営の基本方針を定める「基本構想」、それを実現するための基本的施策を示す「基本計画」、財源や優先順位を勘案して実施することをより具体化する「実施計画」という3層構造とすることとしています。このため、意見募集を行った基本構想（素案）は抽象的な内容が多いのは事実ですが、今後策定する基本計画及び実施計画において、より具体化していきます。</p> <p>◆庁内の連携について 第8章柱Ⅱにおいて、持続的な行財政の運営を位置付けており、その取組みの一つとして職員の人材育成を位置付けていく予定です。また、いただいたご意見は庁内で共有し改善を図ってまいります。</p>
<b>番号</b>	<b>頁</b>	<b>意見</b>
4	全般 4	<p>1月11日の町民報告会でワークショップの成果（どの様な）を伝え、意見交換を行った（どの様な意見） ワークショップのいろいろな項目について3年後、5年後、10年後になる項目はどの様に決めるのか 町の説明会を開いて下さい 昨年のワークショップで話しが出ている環境整備については、特に歩道に面したブロック塀、崩れそうな石垣、消えたままの白線、雑草等（計画ではないはず、すぐをお願いします）、すみやかな対応を（基本構想P4安全なまちづくり）</p>
		<b>町の考え方</b>
		<p>◆町民ワークショップで出された町民意見の取り扱いについて ワークショップなどでいただいたご意見は、全庁体制での策定委員会や大磯町総合計画審議会などで検討・議論を行い、基本構想（素案）策定の参考とさせていただきます。 今後「基本計画」及び「実施計画」を策定していく中で、策定委員会や大磯町総合計画審議会において、いただいたご意見を改めて参考としながら議論を進め、具体的な施策（項目）について検討していきます。</p> <p>◆安全なまちづくりについて 今後策定する基本計画において具体的取組みを位置付けてまいります。 なお、町民の皆さんの安全に支障をきたす項目については、総合計画にかかわらず、緊急性等に応じ、必要性を判断して実施しています。</p>
<b>番号</b>	<b>頁</b>	<b>意見</b>
5	全般	<p>「広報 おおいそ」の4ページ、5ページを何回も読み返しました。 この中に「計画の構成と計画期間」、「課題は「人口減少」と「少子高齢化」」 PickUp1、まちの将来像・・・「紺碧の海に緑の映える住みよい大磯」 PickUp2、まちづくりを進める2つの基本理念 PickUp3、将来人口・・・10年の人口減少を抑制 PickUp4、施策の大綱・・・まちづくりの5つの柱 これらは、なるほどもっともな事と課題や理想が書かれています。 これらを実現するための具体策や案をこれから、それをパブリックコメントで具体策を提案します。 私はその中で「課題は「人口減少」と「少子高齢化」について述べたいと思います。何故なら、この課題の解決なくしてPickUp4の実現は出来ないし、この課題を解決すれば自ずと実現が出来ると確信しています。 先ず、町の財政は決して豊かではなく、むしろひっ迫していると思っています。こんな時ですから、全てのことをやろうとしてもそれは無理というものです。町は、特に町長はあれもこれもやりたいと思うし、やりたいと言うでしょう。しかし、ここは我慢すべきは我慢するという事を住民に分かってもらう事です。 その上で下記の具体的な提案をします。 1番有効な手段は工場誘致です。出来れば本社工場の誘致です。 これが出来ると先ず、①町に税金が入ります。②雇用の促進が出来ます。③社員の為の住宅が必要になります。④人口が増えますし、子供も増えます。⑤その他、沢山の副産物が付いてきます。 私は以前、卓話集会でその事を提案したことがあります。 その時の町長の答えは「IT企業のような会社が理想」と言われました。IT企業では</p>

雇用の促進は望めないし、人口の増加もさほど望めません。

やはり、雇用の創出や人口増加にはある程度の規模の企業進出が必要です。工場・・・という、直ぐに騒音や化学汚染などの公害を問題にして反対運動が起きるでしょう。大磯町というところは土地柄か？新しいことには何でも反対、という風潮があります。この反対を押しきる強い説得力が必要です。

誘致するに当たっては、ただ「来てください」では今の時代ですから「ハイ行きましょう」という企業はないでしょう。例えば、3年間は固定資産税を0にしましょう、とかその企業の社員が借家に入る場合には家賃手当を補助しましょう、とか。その他、来てもらうには思い切った様々な魅力的な見返りが必要です。3年後から回収する位の長いスパンで考える必要があります。元々工場誘致が無ければ、無かった税金なのですから、そのくらいの我慢が必要です。

誘致する方法については、町をあげて考える必要があります、優秀な案に対しては賞金や商品を用意します。

たいていの企業では「提案制度」というのがあって、例えばコストダウンに結びつく提案には商品や景品を出します。有効な新製品提案には莫大な賞金が出たりします。是非、町もこのような事を考えて下さい。ただ、みんなで考えて下さい、ではダメだと思います。

ここからは余談になりますが

皆さんは、昔、今の平塚学園のグラウンドの所に外資系の化学会社の本社工場があったことをご存知ですか？

その会社がどのように入ってきたか？また、どのようにして去って行ったか？ご存知ですか？

もうほとんどの人が知らないでしょう。

入ってくる時には、町長を始め住民の8割、9割の反対があり、出て行く時には全員が「出て行かないで！」となったのです。それでも出て行ってしまった。何故でしょうか？私は当事者でしたから、良く知っています。入ってくる時には町と3つの約束をしています。①重油を使わずに灯油を使う。②地下水を使わずに水道水を使う。③夜10時以降は操業しない。等ですが公害を出さないことは当然のことでした。その為に莫大な経費をかけて公害対策をしました。それによって商品が他社よりも高くなって販売に苦労しました。(笑)

出て行く最大の原因は「町が約束を守らなかった」という事でした。(※必要ならいつでも説明に行きますよ。)

本社工場が出て行った後、跡地に初めディベロッパーがマンションを建てようとして計画しましたが、これも地元の反対にあいつぶされてしまいました。その結果が平塚学園のグラウンドです。学校のグラウンドでどれだけの税金が計れましたか？考えてみて下さい。

もう一つの例は30年前位でしょうか？石神台の北側、新幹線の奥の方に昭和電工が研究所を作ろうとした時がありました。この時も、石神台を始め、町をあげて反対運動を起こしてついに研究所建設をあきらめたようです。

「死んだ子の年を数えたくない」ですがもしあそこに工場が出来ていたら・・・古い資料に昭和電工は3年後に400人規模の研究所にしたい、とありました。400人になったら石神台に少なくとも50世帯は入っていたでしょう。雇用もパートの方も沢山必要でしょうし、清掃会社なども地元の会社が入っていたでしょう。税金も増え、人口も増えていたでしょう。反対の1番は多分、公害問題だったのでしょうか。大磯をあきらめた昭和電工は千葉県の上野市？の方に行った、と聞きました。千葉県で昭和電工は公害問題を起こしたのでしょうか？石神台で調べた人がいたそうです。1件も1回も問題が起きていないし、新聞でも「公害問題を起こした」というニュースを聞いた事がありません。

余談が長くなりましたが、ここで私は何が言いたいかというと大多数の意見が必ずしも正しいという事ではない、という事です。少数意見でも大磯町にとって将来必ず、ためになる、という事を知って欲しいのです。確かに大磯というところは、海があって、山があって、自然が豊かで歴史も文化も素晴らしい所です。ただそれだけでは観光事業にしても成り立たないし、ましてや大きな税金増も人口増加も望めません。

これからは、若い人達が真剣に大磯の将来を考えるべきです。町長が言ったから、部長が言ったから正しい、では、前に進めません。今こそ殻を破って明日の大磯を考え、作って行くことだと思います。若い人達に大いに期待します。やれば出来る、と。

以上。

#### 町の考え方

##### ◆人口減少と少子高齢化について

町の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計とほぼ同じ推移をたどっており、人口減少と少子高齢化が進む中で、計画期間中の人口は約2万8,000人となることが

		<p>見込まれています。</p> <p>人口減少、特に生産年齢人口の減少が進展する中で、持続可能な地域をつくり上げるために、総合計画の策定に合わせ人口ビジョンの見直しと、人口減少対策に関する総合戦略の改定を予定しています。</p> <p>人口減少については厳しい状況が予想されますが、いただいたご意見を参考とさせていただきます、あらゆる分野での人口減少対策に取り組んでまいります。</p> <p>◆工場誘致について</p> <p>基本構想に掲げた各項目と照らし合わせて大規模な工場の誘致は想定していません。また、特定の企業に依存することは、その企業の業績等により雇用環境や税収等も左右されるという懸念もあります。町としては地域資源や空き家や空き店舗などの既存ストックを活用した産業の活性化をめざすこととしています。</p> <p>◆町民からの提案制度について</p> <p>第8章柱Ⅳにおいて町民の力や知恵が集まるまちづくりを掲げています。既に町政運営の様々な場面において町民参画を実施しており、今後も各事業に応じた方法で意見等を求めています。</p> <p>◆少数意見について</p> <p>基本構想の策定に当たっては、「大磯町第五次総合計画策定方針」に基づき、町民アンケート、卓話集会、ワークショップ、町民報告会、中学校生徒会との意見交換会、各種団体との意見交換会などを実施し、幅広い世代から多くの町民の皆さんの意見を伺ってきました。多数意見、少数意見に限らず、いただいたご意見を参考として基本構想の策定を進めてきており、今後策定する「基本計画」や「実施計画」においても、いただいたご意見を参考に具体的な施策（項目）について検討していきます。</p>
番号	頁	意見
6	全般	<p>いつまでも住み続けたいと思える町を創って行く為に、町民一人ひとりが持っている力を出し合い、まちづくりの輪を広げることで、新しい創造や活力生まれる。・・・これが実現できれば素晴らしいと思います。</p> <p>人口ビジョンの見直しに関する考え方について</p> <p>・2030年までに、合計特殊出生率を1.50に向上させ、以降もその水準を維持する為に、子育て世代の転入を増加させる事とありますが、現状直近5年間の実績では30代後半～40代前半と子供の転入が増加している事が大きな要因であり、今後ともこの状況を維持する為に何が転入増加の要因になっているのか？</p> <p>若い世代が大磯に移住・転入してくる要員は、観光資源（文化・歴史遺産）に魅力を感じて訪れてくる交流人口の増加ではありません。</p> <p>大磯暮らしを体験（大磯市・大磯農園・大磯うつわの日・高麗神社竹灯りイベント・いそっこ海の教室・大磯地曳網体験・大磯宿場祭り等）した若い世代が、大磯に魅力を感じ関係人口となりこの関係人口の広がりが大磯への移住・転入のきっかけになっていると考えます。（関係人口と交流人口の違いについては、総務省の関係人口ポータルサイト別紙参照）</p> <p>今回の大磯町第5次総合計画の中に、他の自治体でも取り組んでいる「関係人口」の文言を是非加えて頂きたいと思えます。</p> <p>今後、関係人口を拡大して行くための施策として、すでに大磯に移住・転入人たちの中で大磯暮らしを充実させている方達に移住サポーターとして、一方では大磯に長年住んで大磯を熟知している方達にはシニアサポーターとして協力頂き、これらの皆さんの関係人口案内人としてのネットワークを構築する事。</p> <p>この度（4月1日）立ち上げた、一般社団法人 海鈴大磯（かりんおおいそ）では、2004年の大磯総合計画のワークショップに参加した有志で立ち上げた、「大磯だいき倶楽部」での17年間の様々なまちづくり活動に関わる中で知り合った皆さまと、関係案内人ネットワークを創り「関係案内所」として微力ながらお役にたきたいと考えております。</p>
		<b>町の考え方</b>
		<p>◆「関係人口」の記載について</p> <p>地域と多様に関わる方である「関係人口」に着目し、町の地域性、特色を生かした事業の展開を図り地域外からの交流の入り口を増やすことの視点の必要性については、ご意見のとおりと考えており、第4章において「つながりと創生」として位置付けています。</p> <p>いただいた個別具体の取組みにつきましては、今後「基本計画」及び「実施計画」の策定の参考とさせていただきます。</p>
番号	頁	意見

7 全般 2 4 5	<p>全体的には、アンケート・ワークショップ、意見交換の場での意見や思いをふまえた内容となっていると思われる。基本計画で具体的な取組を示し、どうやっていくかわかる計画にしていきたい。特に、町民参画の手法、課題解決への取組について、少なくともいいから、方向性が示せるものは示して頂きたい。 P 2, 4, 5 についてはご検討いただきたい。</p>			
	2 ページ	つながりと創生	1 行目 少子高齢化社会	高齢化率が 21% を超えており、少子高齢社会となっているため、
	4 ページ	柱 I 安全なまちづくりの推進	2 行目 自助・共助・公助	自助・互助・共助・公助の視点にしていきたい。
	”	柱 I 子どもを～	1 行目 女性の社会進出に伴い、	次の文章へつながりにくい。子育て世代が未来を担う子どもたちを～でよいのでは。
	”	柱 I 健康と～	3 行目 健康増進や疾病予防	健康寿命の延伸には、健康増進と疾病予防の両輪が必要なため
	5 ページ	柱 II 交流と協働～	4 行目 町民参加型	もう一步進めて町民参画型にしてはいかがか。
<b>町の考え方</b>				
<p>◆基本計画における町民参画の手法及び課題解決への取組みについて 基本構想の策定にあたっては、「大磯町第五次総合計画策定方針」に基づき、町民アンケート、卓話集会、ワークショップ、町民報告会、中学校生徒会との意見交換会、各種団体との意見交換会など実施、また、全庁体制での策定委員会や大磯町総合計画審議会において検討・議論を重ねるなど、策定に向けて様々な方のご意見を伺ってまいりました。 今後「基本計画」及び「実施計画」を策定していく中で、全庁体制での策定委員会や大磯町総合計画審議会において、いただいたご意見を改めて参考としながら議論を進め、具体的な施策（項目）について検討していきます。 また、基本計画の素案がまとまりましたら、パブリックコメントを実施し、町民の皆さんからご意見を伺いながら策定を進めていきます。</p>				
<p>◆2 ページ 「つながりと創生」 1 行目 「少子高齢化社会」について 一般に、高齢化率が 7% 以上 14% 未満は「高齢化社会」、14% 以上 21% 未満は「高齢社会」、21% 以上は「超高齢社会」と分類され、町を取り巻く高齢化率の状況は、本町では 33.8%（令和元年版大磯の統計）、国では 28.1%（令和元年版高齢社会白書）となっています。 いただいたご意見を踏まえ、「少子・超高齢社会」との表現に見直します。</p>				
<p>◆4 ページ 「安全なまちづくりの推進」 3 行目 「自助・共助・公助」について 「互助」という表現は、様々な場面で使われていますが、例えば、福祉行政における地域包括ケアシステムにおいては、身近な人間関係の中でお互いを支え合う視点としての考え方があることと認識しています。 本町の防災・減災の分野においては、かねてより「自助・共助・公助」として取組を進めており、町民にも広く浸透していることから、この表現としているものですが、ここでいう「共助」の考え方につきましては、ご意見の「互助」の趣旨を網羅したものとして区分しています。 なお、計画内の各種用語の解説については、今後定義付けしていくことを予定しています。</p>				
<p>◆4 ページ 「子どもを産み育てやすい環境づくりの推進」 1 行目 「女性の社会進出」について 女性の社会進出に関しては、女性の就業率の上昇、女性の雇用環境の多様化、核家族化など、近年の社会情勢の変化に伴い、様々な背景があるという認識のもと「女性の社会進出に伴い」との表現を使用しているものですが、女性の社会進出のみが要因ではないと考えます。 いただいたご意見を踏まえ、「子育て世代が」との表現に見直します。</p>				
<p>◆4 ページ 「健康と生きがいづくりの推進」 2～3 行目 「健康増進や疫病予防」について</p>				

	<p>健康増進や疾病予防の両面から町民の皆さんの健康づくりに関する活動を効果的に推進できるよう、具体的な取組みについては、今後策定する基本計画の中で検討してまいります。</p> <p>◆ 5 ページ 「交流と協働のまちづくりの推進」 4 行目 「町民参加型のまちづくり」について</p> <p>第 8 章柱Ⅱ「町民の力や知恵が集まるあるまちづくり」における各項目については、基本理念で掲げる「つながりと創生」に直結する施策であると考えています。</p> <p>一般に「町民参画」とは、町の施策や計画等のまちづくりの過程に町民が主体的に関わることをいい、参加よりも関わりの度合いが強いものとなります。関わりを深めていくことも重要なことと考えていますが、本項目では、まちづくりに関わる方の裾野を広げていきたいとの考えから「町民参加」としています。</p>
--	---